

東實業新聞

發行日 五日、十五日、廿五日
 定價 一部 十錢 一月廿錢
 郵稅共 一ヶ月 二圓四十錢
 廣告料 普通欄 十二行一圓
 特別欄 金一圓五十錢
 發行所 福島縣石城郡平町字長橋町三〇
 東北實業新聞社
 編輯印刷人 遠藤林藏

本年は明治元年辰の年から數へて丁度六回目の辰の年、人間で云ふ還曆六十一歳に當る。明治維新は要するに政治を主とした大改革であつた、爾來國運振張、兎も角も世界列強の班に入つた我が帝國は、天惠人力種々の事由で今や經濟上なかなか多事多難、或は經濟的行詰りといはれ、或は經濟的困難といはれる。過去を顧み、現在を思ひ、世界列國の趨勢を見て、我が帝國の將來を考へると、此際國民が眞に舉國一致の大精神を以て第二明治維新の大業を經濟上に斷行せねばならぬことを何人も痛感する。

既に政府は産業立國を旗印とし、在野黨亦産業の合理化を高唱す。目を海外に放てば、獨逸は敗殘の國運復興の一途を産業の合理化に求め、孜孜精進、他日擡頭の曙光を示し、米國は産業合理化の成績着々舉がり蓋世の勢威轉た測るべからざるものがある。世は當きに産業の合理化によつて經濟的振興を圖る外國際的落伍者たる運命を免る途なき有様、斷じて苟安姑息、舊習に拘泥し情實に低迷するを容さない。

産業の合理化は國情により形式、内容固より一でなからうが、企業の合同、大量生産、生産及販賣の組織化、標準化、單一化、機械化等總じて經營上總ゆる無駄を省き、能率の最高發揮を圖り以て製品の統一、原價の低下、貿易の振興、國民生活の厚福、社會の進歩を促進するものたるは周知に屬し喋々を俟たぬ。昨年、財界恐慌は圖らずも金融界の不合理を如實に示し金融界の大改革を促がし、斯くて金融の大量生産、從つて原價の低下、金利の低下を招致し即ち我が金融業は既に合理化の途上に進みつゝあるのである。

單り金融といはず、生産といはず、販賣、消費といはず、經濟上總らゆる方面に亘りて大改革大改善を斷行し、明治維新有終の美を完成し、明治大帝の御偉徳を永へに仰かむこと吾人當代國民の責務でなからうか。乃ち茲に還曆、明治元年に立ち歸り、昭和の新時代に於て、第二明治維新を國民經濟振興の上に實現せむため、我が經濟界の合理化、經濟的大維新を唱ふる所以である。

石城銀行組合

磐城銀行	平越銀行	磐城實業銀行	磐東銀行	四倉銀行	第七十七銀行	第七十七銀行	農工銀行	常盤銀行
平三丁目	平二丁目	南平町	平四丁目	植田町	四倉町	平三丁目	平二丁目	平四丁目

石城銀行組合

植田水力電気株式會社
 社長 金成通

小野晋平

山崎登

時計洋品商
 大谷時計店
 平町三丁目 電話一九番

平町信用組合
 組合長 大谷久藏

鈴木榮

平運輸株式會社
 電話二番一七番三七番

山田村々會議員當選御禮

大平芳介
 佐川彦造
 下山田丑藏
 秋山兵部

星製藥株式會社
 チェーンストア
 支部長 駒木根忠三
 平町三丁目 電話四二九番

磐城建物株式會社
 電話五一八番

石城郡第一區
 小學校長會

平運輸株式會社
 電話一七三七・二番



ウシと働く者には 敵が無い

炭礦王 小田吉次氏談

私は自分が富貴の家に生のである、働くのは人類の...

平洋直通鐵道を敷設ことを痛感するのである、...

郡南の不正事件

無智なるもの、弱點に付込んで膏血を絞るに似たる偽紳士の面皮を剥ぐ...

二葉印刷所

平町三丁目 電話七三四番

平町醫師聯合

- 星眼科醫院 大森眼科醫院 大和田耳鼻喉科醫院...

湯本用無盡株式會社

湯本町 電話四七番

小原長英

七十七銀行平支店長

河西八十治

農工銀行平支店長

小名濱商事株式會社

社長 小野晉平 專務 小野務平

馬上守一

植田郵便局長

木炭輸出商

渡邊重三郎

常盤線植田町

四倉銀行會社組合

小田炭礦株式會社

社長 萩原申八

赤井村長 根本忠松

矢野達

鈴木久松

宮内喜作

推賞の的となつた

模範青年

上遠野村 藤屋家の幸福

春の野に萌え出した草木をため祝福すべきである否郷見るとなるとなく力の籠つて土の誇りとして謳はるゝも居る様に思はれ春の山の樹決して遠くはあまい、忠立に葉が廣つてゆくのは何夫君は斯る富豪の家に生れとなく勢がある様感せられ知識階級の人でありながら彼の石城郡上遠野村に繁如何に營業柄とは云へ或はく活動せられて居る青年赤農事に或は酒の配達に或は坂忠夫君の奮闘を以て表村の世話事に、或場合にはそや、

世界を丸く廻轉する地球をより鼻の細心周到公務私務を見るも何等言分はなからうの差別なく晴天白日の氣象を發揮して各者の便宜を計り又營業に對しては能率のた藤屋號赤坂家は政界の巨増進に勉め朝は露を踏み夜人元代議士赤坂龜次郎氏はは月を迎へての活動振りは産み、世襲赤坂毅一氏は又現代の青年に稀に見る處で地方稀に見るの人格者とある人情浮薄の今日、遊蕩て社會に知られた聲望家も兒や、不良青年に藥にして物質に恵まれず、斯る富豪飲ませたきものである、赤の家も人格の高きも世に忘坂家の回復は同君の力に依らるゝに至つては社會の罪つて容易であり金鐵の如きか政治家の罪か謂ゆる政黨ありと深く察するのである屋の罪と呪ふより外あるまらぬ。

い、記者は深き同情に堪えない、然し天は不正に組せず正義は最後の勝利である此の正義の力に感謝すべきは令息忠夫君を以てせねばなるまい世が世なりせば若様と呼ばれ若旦那と崇められ何不足なき身分なるに今は昔の豪奢に引かへ不如意勝の經濟状態に陥り實に氣の毒に堪えない次第である令息忠夫君は天資敏達嚴君に勝る第二世として傑出せる同氏を得たるは赤坂家の

赤井村長 根本忠松

磐城耐火煉瓦株式會社

矢野達

赤井驛前

鈴木久松

赤井村

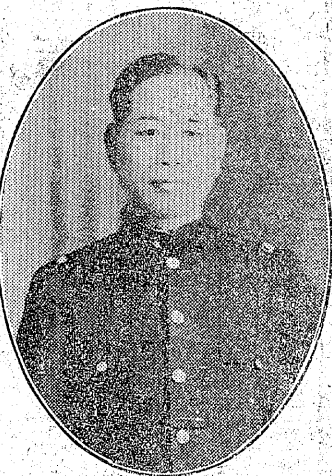
宮内喜作

赤井村

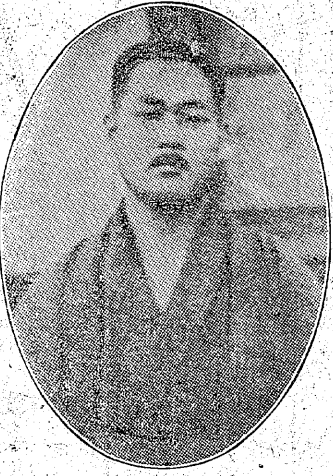
謹賀新年



植田町長 佐川龜太郎氏



植田消防組頭 坂本龜太郎氏



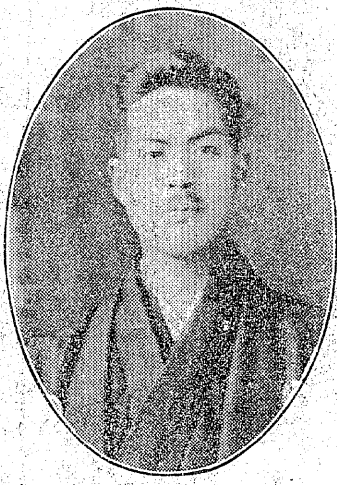
植田町助役 小野忠衛氏



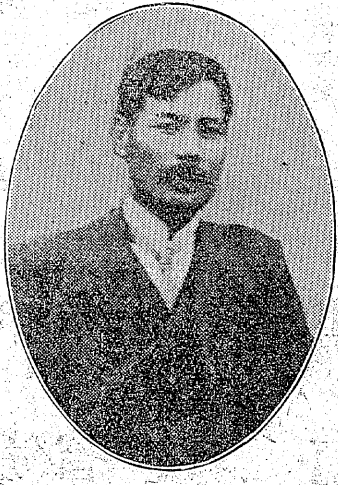
植田町 藤田淺之助氏



植田町醫師 片岡章氏



植田町齒科醫師 森合芳男氏



植田町會議員 保之助氏

下山忠太郎

醬油 大平喜治

醸造元 植田町

植田町 大平千秋

町會議員

縣會議員 (イロハ順)

若松美三
野崎滿平
山崎吉藏
鷺崎清昇
古川傳一
鈴木辰三郎

渡邊德之助

秋山清太郎

醫師 安島直人

山田村役場 秋山藏之助
助役 小野末吉
收入役

植田町 安田屋吳服店

電話一四番

植田驛前 植田運送合資會社

電話一七番

謹賀新年

植田町
磐城無盡商會
會長 小宅嘉久治

平町停車場前
住吉屋支店
酒井清平
電話一四九番

本釀
銘酒白馬の雪
舖造 松本德一
石城郡平窪村

山崎合名會社
平町
電話一〇番・二七番

石城郡高久村役場

村長 鈴木喜太郎
助役 本馬武
收入役 箱崎豊
書記 猪狩千代司
同 藁谷明

平藝妓屋組合

川前郵便局長 永山龜太郎

田村實業 永山德一
組合頭取 川前村

株式會社 平營業所
東部電力

平白馬の雪

平五丁目角

山野邊藥局
山野邊東次郎

四ツ倉電氣株式會社
社長 新妻盛

四倉銀行頭取 吉田保之助

關内藥舖
藥劑士 關内榮助
平町四丁目 電話四〇番

中村醫院
小名濱町 中村三良

釀造元油 小澤貞久
石城郡上遠野村

打綿類布團 製造問屋 吉村安次郎
平町研町 電話二五七番

鶴屋洋品店
平町四丁目 電話百四十番

植田町御料理旅館

山田屋本館
電話八番

山田屋別館
電話一八八番

上遠野村

村長 吉田房吉

醫師 鈴木省吾

村會議員 鈴木子之吉

共和裁縫女學校 大泉元之助

蛭田直重

植田町 高木五郎
收入役

植田町 渡邊國之助
町會議員

植田町月山下

セメント瓦製作所

赤津島治

小宅金四郎

植田町本町 松盛堂 松本藥店
電話六一番

郵便局長

永山定秀
渡邊村

喪中三付年賀ノ禮ヲ欠ク

綠川材木店
綠川信人
植田町

木内善次郎
山田村

謹賀新年

福島縣平町 電話一三九番

釜屋商店
諸橋久太郎
諸橋守次郎
諸橋元三郎

日清生命保險株式會社

島田三

藥種商 荒川善次郎
四ツ倉町 電話一二〇番